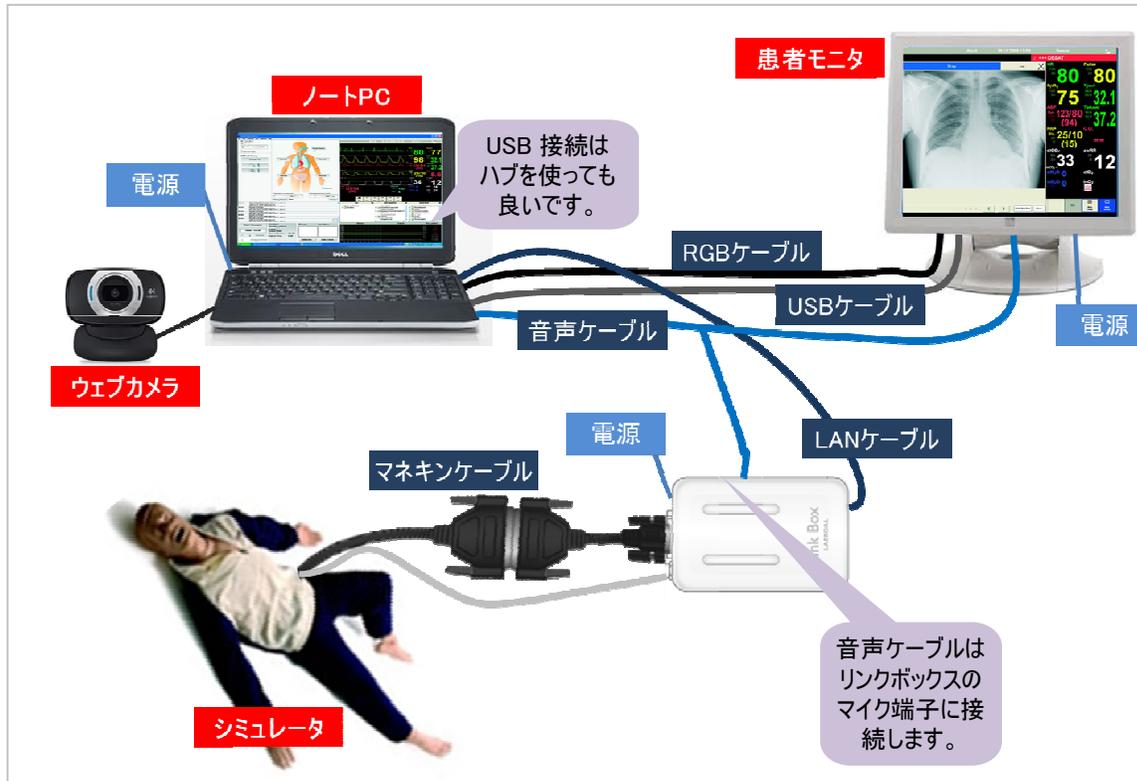


# ALS シミュレータ アドバンスド 簡易マニュアル

## <接続図>



## <プログラムの起動>

- ① 予めリンクボックスの電源を入れておきます。
- ② PC のデスクトップ上のアイコンをクリックします。

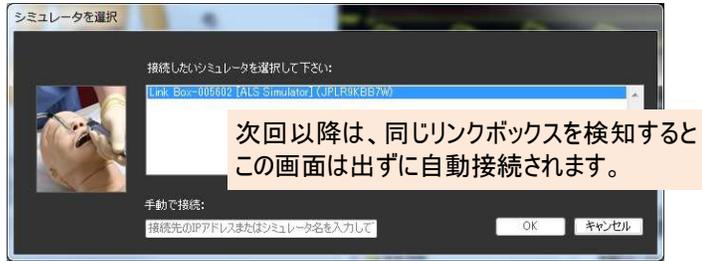


ログイン画面でパスワードを入力(最初に設定しておいた場合)し、「OK」をクリックします。

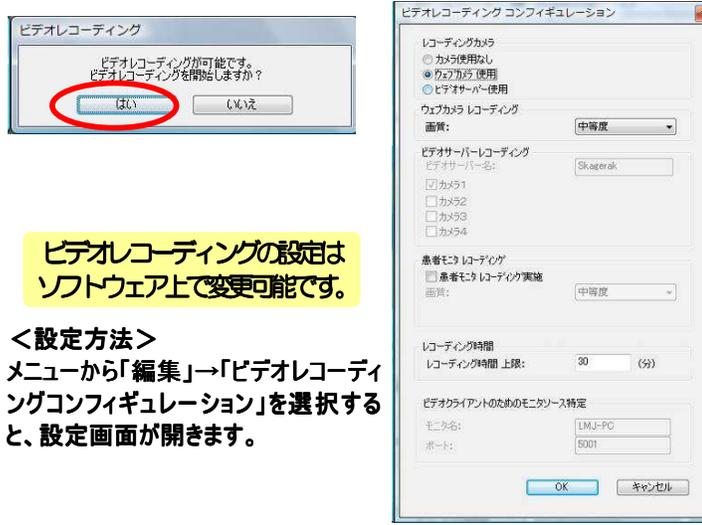
ユーザーの編集画面にて「閉じる」をクリックします。



③ 初回の使用時は、「シミュレータを選択」というメニュー画面が現れ、接続可能なリンクボックスとシミュレータがリスト表示されています。使用するシミュレータが接続されているリンクボックスを選択し、「OK」をクリックします。



④ Web カメラを使って録画する場合は、「はい」をクリックします。



③操作画面が表示されます。

A: マネキンとのリンク状態

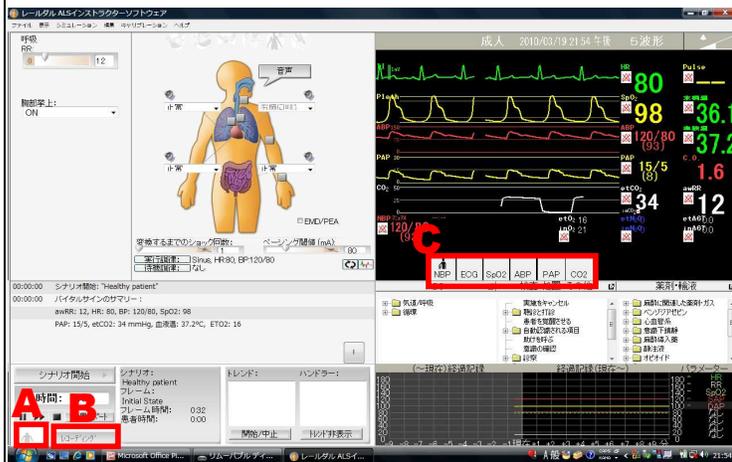


B: Web カメラでの録画状況



C: モニタ表示の状態

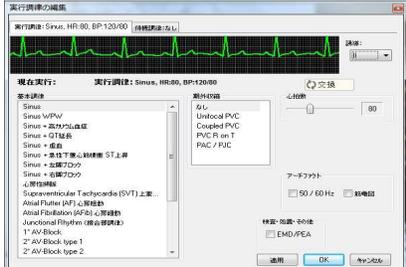
✓を入れる则表示されます



## <操作方法>

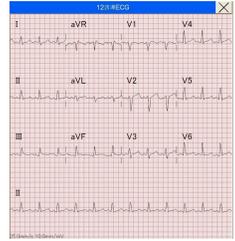
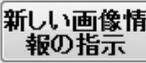
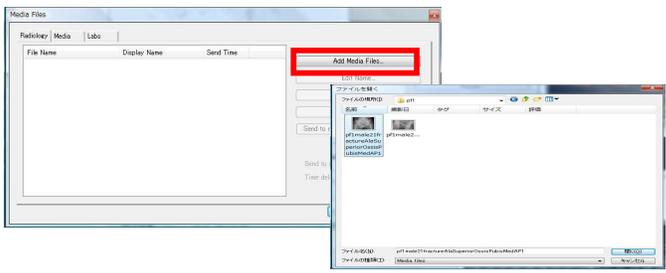


The screenshot shows the Laerdal ALS software interface for SimPad. It includes a patient status window (top left), a sound/airway/heartbeat control panel (center), a vital signs and waveform display (top right), a scenario control panel (bottom left), and a detailed ECG display (bottom right). Red boxes and numbers 1 through 13 point to specific features: 1. RR (Respiratory Rate) control; 2. Chest lift (胸部挙上) control; 3. Sound (サウンド) control; 4. Airway (気道) control; 5. EMD/PEA checkbox; 6. Shock count and pacing threshold controls; 7. Scenario start and end buttons; 8. Scenario log; 9. Scenario start button; 10. Scenario end button; 11. Vital signs and waveform display; 12. ECG control panel; 13. Detailed ECG waveform display.

<p><b>1. RR</b></p>	<p>呼吸回数の変更ができます。</p>
<p><b>2. 胸部挙上</b></p>	<p>自発呼吸による胸部の挙上を ON/OFF できます。</p>
<p><b>3. 自動検知される項目</b></p>	<p>気道確保、脈拍の確認、人工呼吸、胸骨圧迫、除細動、ペーシングを行った場合にアイコンで知らせます。</p>
<p><b>4. サウンド・脈拍・気道</b></p>	<p>呼吸音・心音・腹部音、頸部・上腕部・橈骨の脈拍の状態、および気道閉塞の状態を表示します。</p>
<p><b>5. EMD/PEA</b></p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>を入れると血圧が 0/0 となります。</p>
<p><b>6. 変換するまでのショック回数 ペーシング閾値</b></p>	<p>&lt;除細動有効無効&gt; ショック回数変更 除細動無効</p> <p>&lt;ペーシング有効無効&gt; 閾値の変更 ペーシング無効</p>
<p><b>7. 実行調律/待機調律</b></p> 	<p>ECG 設定をここで確認・変更できます。 実行調律: [ ] か 待機調律: [ ] をクリックすると ECG 設定ウインドウが表示され、それぞれの設定を変更できます。</p> <p>PC 上で ECG 波形を直接クリックしても同じ画面が開きます。</p> 

<p><b>8. ログ(処置履歴)</b></p>	<p>実施した処置とシミュレータの状態変化が自動記録されます。右側にある「！」をクリックすると、インストラクターがコメントを入力することができます。</p>
<p><b>9. シナリオ開始</b></p>	<p>クリックすると保存されているシナリオが一覧表示されます。</p>
<p><b>10. 結果レポート</b></p> <p>ここをクリックすると、ディブリーフィングの為の結果レポートを表示できます。</p> <p>①処置履歴、②モニタ画面、および③録画映像を1つの画面上で時系列で振り返ることが可能です。</p>	<p>※フィードバックしたい項目の時間をクリックすると上記のような画面が表示され、結果レポート画面下のプレイ ▶ をクリックするとトレーニング中のビデオが再生されます。</p>
<p><b>11. 各種パラメータの変更</b></p>	<p>PC側のモニタ画面でそれぞれの数値にマウスポインタを当てると、マウスホイールで値を変更できます。</p> <p>クリックをすると設定画面が表示されます。ここでは数値の変更に加えて変更までの時間や変化のカーブを設定できます。</p>
<p><b>12. 実施項目</b></p>	<p>「応援を呼ぶ」「投薬」など、シミュレータが自動検知できない項目をログに残すための機能です。シナリオと連動させることで、特定の実施項目の入力後にバイタルサインを自動的に変化させたりする事も可能です。</p>
<p><b>13.トレンド(現在および未来)</b></p>	<p>過去とこれからのバイタルサイン変化が表示されます。</p>

応用編：12 誘導 ECG と各種メディアファイルの表示

<p><b>12 誘導 ECG の表示</b></p>	<p>患者モニタの下にある  をタッチすると、その時の 12 誘導 ECG 波形が表示されます。</p> <p>右上の 、又は  をタッチすると画面が閉じます。</p> 
<p><b>メディアファイルの表示</b></p>	<p>患者モニタで▶▶をタッチすると別メニューが表示されます。</p>  <p>「画像情報」「動画ファイル」「臨床検査データ」をタッチすると、各種のメディアファイルを表示できます。</p>  <p>例：X 線写真を表示する</p> <p>①まず患者モニタの画面下の  をタッチし、表示されたウインドウの右下にある  をタッチします。</p> <p>②PC 画面上にウインドウが表示されるので、「Add Media Files」をクリックし、任意の画像を指定します。</p>  <p>③「OK」をクリックすると、患者モニタに画像が表示されます。</p> 